

The Japanese Alpine Club Kumamoto Section

第56号



熊本支部報

(公社)日本山岳会熊本支部

令和5年4月28日発行

編集・発行者 田北 芳博

(公社)日本山岳会熊本支部事局

熊本市中央区帯山 1-25-17-801

山本 直方



アセビとくじゅう連山（上泉水山より 4月末）

目	次	ページ
1 第15回「ヤマの写真展」報告	田北 芳博	②
2 令和5年新春晚餐会報告	山本 直	④
3 トレーニング同好会（金峰山）報告	山本 直	⑤
4 檜山報告書（里山低山クラブ）	池田 清志	⑦
5 個人山行 宝満山（難所が滝・仏頂山）	中村 寛	⑧
6 冬山講習会報告	土井 理	⑩
7 烏山・黒岳・帽子山報告（里山低山クラブ）	池田 清志	⑪
8 山岳古道調査 阿蘇カルデラ外輪山越えの峠道	池田 清志	⑬

9 宮崎支部交流登山

山本 直 ⑯

10 会の異動 事務局より

事務局 山本 直 ⑯

1 第15回「山の写真展」報告

山の写真展担当 田北 芳博

副担当 三宅 厚雄

開催期間 令和4年12月3日（土）～令和5年1月31日（日）

会場 道の駅大津「休憩コーナー」

出展者 12名（前年度12名） 土井理・中林暉幸・石井文雄・廣永峻一・城戸邦晴・池田清志・阿南大吉・千々岩泰子・中村寛・坂本雄二・三宅厚雄・田北芳博

作品数 22点（前年度50点）

（今回は展示スペースが狭く、一人2点までとした。）

写真展 設営 12月2日（金）午後3時から

撤収 1月31日（火）午前4時から

今年は例年開催している山の店シェルパの会場が撤去されて、急遽他の会場を探すことになりました。適当な会場が見つからず、私（田北）が長く写真展をやっている道の駅大津を借用することにいたしました。道の駅大津の会場も昨年10月に売り場の改善により商品が並び、展示スペースが以前に比べ狭くなりましたが、今回はそこを使用させて頂きました。

昨年までの会場のシェルパに比べると「山の写真展」としては、山趣味人の流れが少ない、周知が足りないなどデメリットがあったほか、展示数も少なくなりました。道の駅来店者にも見てもらうため、期間は長めに1月末までにいたしました。

山の写真展も今回で15回になり、展示スペースが狭くなつたため一人あたり2点までを原則にしました。なお、今年の会場では登山報告会は開けませんでした。コロナ禍も第8波にいりましたが、道の駅大津も最近は賑わいがかなり戻ってきました。

また、個人情報の管理が不十分なので記帳簿を置かない代わり、記帳用紙（51枚）を投入箱に入れるようにしましたが、十分来展者の数はつかめなかつたようです。ただし、意見を頂く手段としては有用だったようです。

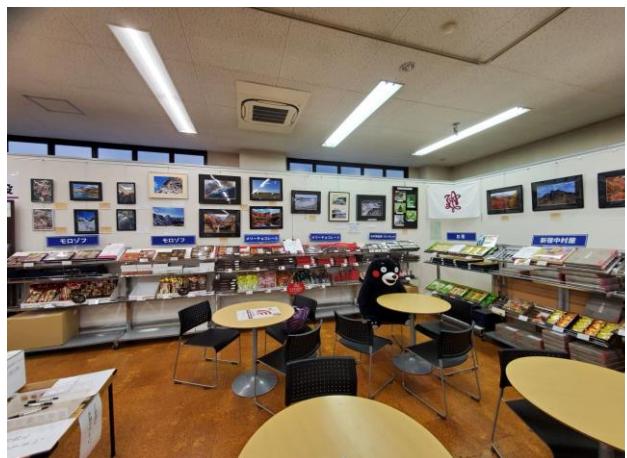
投入箱の主な意見

○珍しい昆虫・阿蘇の景色、とても素晴らしいです。

○証明で見づらいのでアクリル板を取り外してください。山岳会でしかとれないシーンは私たちには羨ましいです。



道の駅大津入り口前の写真展看板



写真展会場風景

○今年もよいものができましたネ。会場がちょっと残念です。

○素晴らしい写真ありがとうございます。

○素晴らしい自然の風景でした。

○40~50歳代たくさんの山に登りましたが、膝の手術をして登れないのが残念です。

○明日も輝こうは光がとてもよい。

○光と影は光がとてもいい。

○山にある大きな・小さな景色に感動の目を向けられている様子が、目に浮かびました。

○ウーム、山はいい。

○誰でも写真が撮れる時代になっている中、マンネリ写真になっている。絶景観に欠ける。圧倒観に乏しい。以前見たことのある風景になっている。今まで見たことのない写真を期待しています。日々前進、日々改革、日々進化の時代。

○各所の山岳写真美しい。まだまだ近隣（阿蘇）登ります。

○素晴らしい写真ばかりです。今年も宜しくお願ひします。

○石井さんのウサギ、よく撮れましたね。

○古里を離れている友人に便りを出すハガキ求めに来ました。喜んでくれると思います。

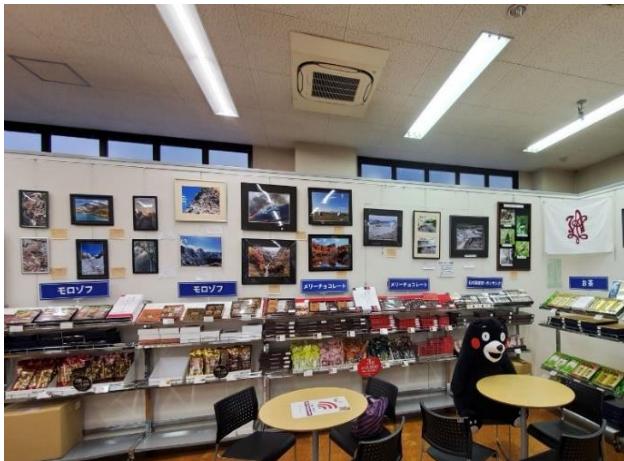
○本年も皆様の活動が実り多きものであることを願っています。



写真展配布物と記帳用紙・投入箱

第15回 山の写真展 出展者作品一覧

出展者	作品1	作品2
土井理	横岳小同心クラック基部から	横岳小同心頂部から望む阿弥陀岳
中林暉幸	大船山御池の秋色	瀬の本高原の秋
石井文雄	野ウサギの子	マイタケ
廣永峻一	台風14号の爪痕 その1 内大臣林道・広河原の爪跡	台風14号の爪痕 その2 御勇林道・峰越林道の爪跡
城戸邦晴	長者原の紅葉	傾山の岩峰
池田清志	2022金峰山での出会い	
阿南大吉	明日も輝こう	
千々岩泰子	障子岳からの展望	三俣山の紅葉
中村寛	阿蘇火口を中岳より	光と影
坂本雄二	姿見の池からの旭岳	青空と白馬大雪渓
三宅篤雄	阿蘇、北向山、栃木谷の紅葉	春の風物詩、米塚の野焼き風景
田北芳博	雲海の波打ち際	阿蘇原野の初秋



2 令和5年熊本支部新春晩餐会報告

公益社団法人 日本山岳会熊本支部
担当 山本 直

1.日時 令和5年1月14日（土）17時～19時

2.場所 ビアレストラン オーデン

3.概要

コロナ禍でなかなか開催できず、実に3年ぶりの新春晩餐会であった。

土井支部長挨拶に引き続き、廣永さんの乾杯にて開宴。しばし歓談。

脊梁トレイルラン事務局から送付されたクオカードの抽選配布を行い、その後、支部長から新入会友2名（木下 昭二様 会友 川上 春枝様）の紹介を行い、当人から自己紹介を頂いた。

久しぶりにお会いする工藤顧問からも近況を含めご挨拶を頂いた。

次の今期の予定について、担当等から説明し参加者を募った。

1月22日金峰山（トレーニング同好会）	担当 山本
2月4日櫛山（里山低山クラブ）	担当 池田
2月5日宝満山（個人山行）	担当 中村
2月11日～12日冬山登山講習会（氷ノ山）	担当 土井
3月2日九重黒岳男池周辺（ユキワリイチゲ）（花を愛でる会）	担当 城戸
3月4日烏山黒岳烏帽子山（里山低山クラブ）	担当 池田
3月11日古道調査（南阿蘇）	担当 池田
3月25日～26日宮崎支部との交流登山（天草方面を予定）	担当 事務局

また、来年度の支部行事について山本から、特に5月の残雪期穂高遠征についてはバス予約の関係で急ぐことから支部長から説明した。

記念撮影の後、中林顧問の締めにより閉会した。

4. 参加者（敬称略） 17名

工藤 廣永 中林 池田
城戸 戸上 橋本 松本博美
土井 宮本 江島 岩下 森
尾 前田 木下昭二 川上
山本



3 トレーニング同好会（金峰山）報告

担当 山本 直

1. 日付 令和5年1月22日（日）

2. 場所 金峰山（665m）

3. 参加者（敬称略順不同）

世話役 山本

中林 坂本 土井 前田 橋本 池田 川上 岩下 城戸 本田 山本 11名

4. 日程

8:40 森の駅 9:07→9:30 1.3km地点→10:05 北登山口→10:15 残り 1km地点
→11:05 金峰山山頂（昼食）

11:32→12:45 岩戸観音

（見学）13:15

→13:45 森の駅

5. 概要

久しぶりのトレーニングである。金峰森の駅みちくさ館へ集合して、仁王像のある金峰山北登山口から北廻り登山道を登り頂上へ。下りは西廻り登山道から岩戸観音を経て、金峰森の駅みちくさ館へ戻る周回ルートとした。

みちくさ館は9時から開館のため、参加者みんな入口前の広場で待機。10分



前くらいに係の方が来たので、みちくさ館へ駐車し直し、届の提出（団体のため駐車場使用届の提出を依頼される）。ガイドブックを受け取り、9時過ぎに予定通り出発。途中の面木神社のサザンカがきれいであった。北登山口で、自宅からランニングで駆けつけた土井支部長が参加し 11 名の参加者となった。

北登山口は始め緩やであるが、車道の少し手前から少し急になり息が切れる。それでも2時間で頂上へ到着。雨模様で寒い中、手早く昼食を済ませ、記念撮影をして、早々に下山、岩戸観音へ向かう。岩戸観音で希望者は中の靈巖堂や五百羅漢を見学、ここからランニングで自宅へ帰る支部長を別れ、雨支度をして道の駅へ戻る。お疲れ様でした。

天気は曇りで寒かったが、雨もほとんど降らず、トレーニングとしては良かったのではないか。ただし、このコースの登山の時期は、段々畠が黄色い蜜柑でいっぱいになる11月下旬がベストであろう。



4 里山低山クラブ「櫛山」～日奈久温泉神社から登る～報告書

担当：池田 清志

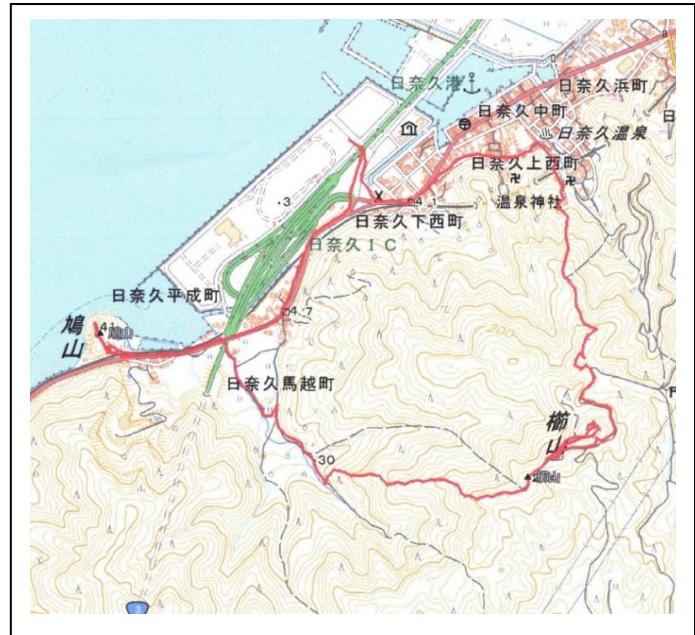
1. 期日 令和5年2月4日(土)
2. 場所 櫛山(八代市・日奈久)
3. 参加者 7名(川上、前田、坂本、田北、中林、戸上、池田)
- 集合 8:20 道の駅竜北(氷川町)～日奈久ドリームランド「シー・湯・遊」駐車場へ移動
4. 行程 9:05 出発～9:30 温泉神社～(反時計回りで)～10:55 櫛山北峰(昼食)11:25～ 11:35 櫛山南峰～12:30 日奈久馬越町～12:55 峰山～13:30 「シー・湯・遊」～14:20 道の駅竜北 14:30 解散、

5. 行動データ 時間：4時間28分、距離：6.2km、高低差：約400m

※ 風情ある日奈久の温泉街を抜け、山頭火の句がいくつか表示されている温泉神社で安全祈願して行く。急な登りのあと車道に出て山頂までゆるやかに歩く。

山頂には小さな仏舎利塔があり、西側の八代海～天草観海～御所の浦のながめがよい。

昼食後、南峰を経て踏み分けのない急なくだり、馬越町方面へ下る。最後に海岸にある峰山(42m)に上る。金毘羅宮があり、海のながめが良かった。



5 個人山行

中村 寛

2月5日（日） 大宰府 宝満山(難所ヶ滝、仏頂山)

参加者 中林、城戸、坂本、本田、森、森尾、中村 車提供者 城戸、中村（敬称略）

九州では珍しい凍った滝を見てもらいたいと思い今回案内しました。私はこの冬3回目ですが、半分程度の氷結でしたが、神々しい滝を見る事ができました。難所ヶ滝は名前は滝ですが、水量は多くありません。九州では流れる滝が凍る事はありません。冬以外で行かれた方はご存知だと思いますが、普段は岩清水程度です。それが冬になると雨や夜露が凍り、見事な氷壁に変身します。今日は8時20分には二つの駐車場はほぼ満車でした。私たちは難所ヶ滝から稜線の尾根に出ましたが、同じような人が余り居なかつたので、この日の目的はやはり凍った滝が目当てだったのでしょう。福岡市に近く一番の人気の山です。熊本では金峰山になるでしょうか？日曜日なるといつも頂上は食事に困る位の登山客であふれます。始めて方には喜んでもらえたので良かったです。



難所ヶ滝の大つららの前で撮影



大つららの手前に小ツララの城戸さん。森さん、本田さんは奥まで探索してました。



宝満山。福岡市内が奥に見えます。
稚児落としを登って皆さん一安心。



6 2023年2月冬山登山講習会・報告

担当 土井理

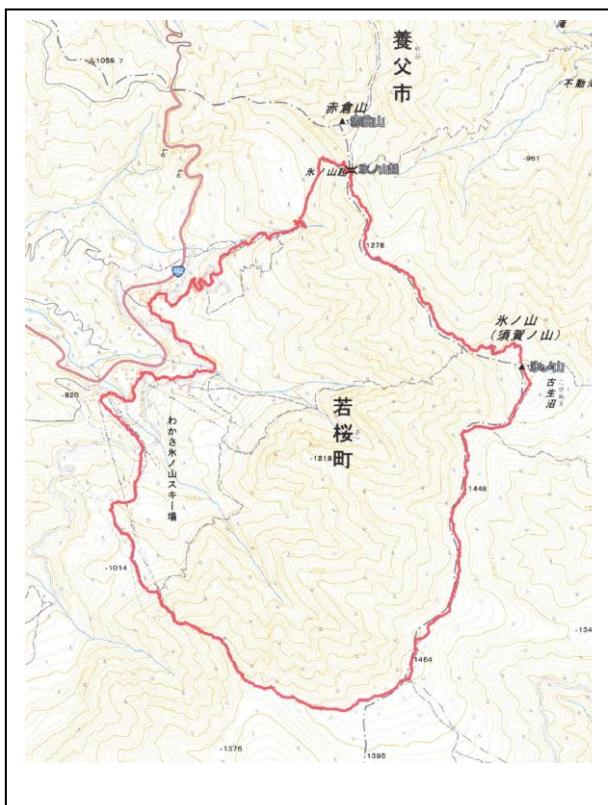
2023年2月（10日夜から）11日・12日 冬山水ノ山登山報告： 担当報告：土井 理
山行実施地：鳥取・兵庫県境にある「氷ノ山：1510m」 参加者：中林、中村、浦川、土井

2月10日（金）午後 19:20 熊本市北区役所駐車場集合 中村さんの車乗合で出発。途中、王司PA 安佐SAでトイレ休憩。九州縦貫道→中国道→安佐SAで給油→佐用JAC→鳥取道→河原ICで降りる。道の駅かわはら 11日 3:00 到着、畳敷の休憩所で仮眠。寒かった。

2月11日（土）

8:30 朝食摂取後、道の駅かわはら出発 9:40 わかさ氷ノ山スキー場 第3駐車場(無料)に駐車。1台分だけ空いていた。ヒュッテ白樺でスノーシューをレンタルし、10:00 登山届提出し、登山開始。わかさ氷ノ山スキー場のロマンスコース→パノラマコースの右端を登山し、チャレンジコースの右端をリフト最上部に向かって登山した。当初チャレンジコール左端リフト下の夏道登山道を登山しようとしたが、雪崩が発生する急斜面で冬期登山が禁止されており、チャレンジコースをトラバースし、コース右端登山した。最大斜度40度の雪面で、積雪は2m近くあり、前日の雨で雪が緩んでおり、時に膝上まで雪に足を取られ大変な登山となった。緩斜面はスノーシューで、急斜面はアイゼンでの登山となった。リフト最上部まで約3時間30分を要しリフト最上部到着が13:30となった。そこからスノーシュー装着し登攀。三ノ丸到着15:10、山頂到着17:00となった。1階に1人の宿泊者で、2階を我々4人で使用させて頂いた。最低気温が0℃前後と高く。結露の氷が解けて2階は水浸しになっていた。畳があり、畳を敷いて滞在就寝する事ができた。雪を溶かして水を確保し、中村さんがお酒持参して来られていた為、夕食を摂取しお酒を飲んで、7時出発の予定として就寝。

2月12日（日）シュラフ、シュラフカバー、備え付けの毛布使用しても尚寒く、風が強く工場の様な音が響き共鳴反響し、皆十分な睡眠がとれている様では無かった。よって早朝5:00頃には皆起きて朝食を摂取し、快晴にて、早朝より山頂に到着される強者が数人おられ、地元兵庫の方、鳥



取の方とお話しし、スノーモンスターは1月初めである事等詳しい情報を頂き、皆で日の出を待った。写真で表す事の出来ない絶景の日の出を鑑賞し、下山準備に入った。

7:40 氷ノ越ルートで下山開始。早朝気温が低く雪が締まっており、アイゼン装着し下山。氷ノ越避難小屋で数分間小休止し、急な下りの登山道を下山。快晴の為に徐々に雪が緩んできて登山口が近づくにつれて膝上、膝下まで雪に足を取られる状況になり、慎重な下山を余儀なくされた。



10:30 無事に氷ノ越氷山命水登山口に下山した。中村さんに駐車場に車を取りに行って頂き、スノーシューレンタルを返却し、11:30 若桜ゆはら温泉にて入浴汗を流した。12:30 帰途に着いた。帰り道の駅に立ち寄り往路と同じ復路を高速道路経由し帰途に着いた。21:00 熊本北区役所駐車場到着。鳥取・兵庫・広島は快晴でしたが、九州は雨で、雨の中各自へ帰宅。

良かった点：快晴、全員自己無く登頂下山できた、地元の方々と情報交換が出来た。全員が絶景との遭遇、高速道路に雪が無かった。

反省点：前日が雨で雪が緩んでいた、時期が少し遅かった、前もって雪山の知識の共有が必要、山行持参する物の確認も皆で把握する必要性を感じた、土井の持参したスノーシューが壊れていたので前もってチェックを怠っていた。雪の状態によって使用する道具が違う事の知識の共有が必要。寒さの準備が甘かった。下山届出すのを忘れて電話で報告した。

7 里山低山クラブ「烏山・黒岳・帽子山」縦走 報告

担当：池田

1. 期日 令和5年3月4日(土曜)
2. 場所 烏山 465m(旧泉村)・黒岳 562m/帽子山 539.7m(旧小川町・泉村)
3. 集合 8:00 アグリパーク豊野 [0964-45-2339] 駐車場(宇城市豊野町)
4. 行程 8:30 縦走路下山口に移動(車をデポし
た後、一部の車で登山口へ移動)、9:00
新道峠(登山口)9:40～10:40 烏山～12:00
八丁峠～13:25 黒岳～14:50 帽子山～
15:20 下山口、15:50 一部は竹崎季長の墓を
見てアグリパークへ、一部は 15:50 新道峠へ(車を回収)
16:30 アグリパーク豊野にて解散



新道峠

5.行動データ タイム 6:09 距離 6.8 km 上り

631m、下り 566m

6.参加者 8名(中林、石井、城戸、松尾、田北、前田、戸上、池田)

7.概要 蒙古来襲絵詞を残した竹崎季長の里、海東。

この桃源郷を南東から北東へ取り囲む山の縦走。

ほぼ晴天の下でゆっくりと早春の里山歩きができた。花はまだ少ないが、かんざしの様な黄色のキブシの花とコショウノキの白い花が目を引いた。展望は烏山から西側が不知火海～宇土半島・上天草の島々、東側は矢山岳～五家荘の山、さらに黒岳まで行くと目前に矢山岳の全貌が現れます。黒岳から先は踏み跡や目印のテープ・リボンがなくなり、GPSを頼りに注意して進まないと進路を外しやすくなる。石灰岩が露頭するところがいくつかあり、歩行に注意を要される。シカやイノシシなどの形跡・痕跡も多く、人の気配がない静かな奥山であった。



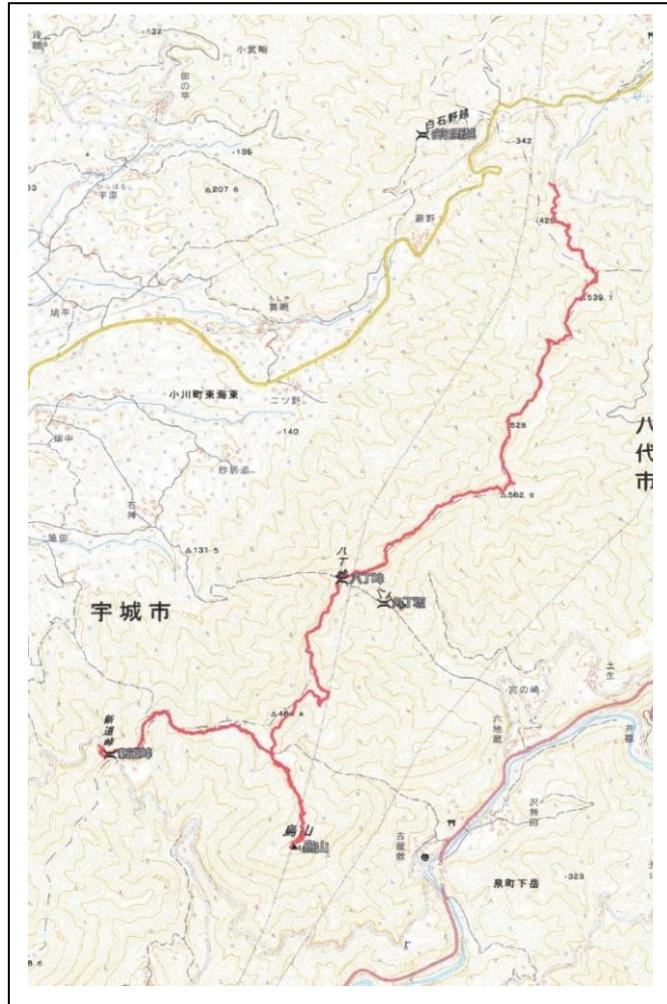
コショウノキの花



烏山



黒岳



8 山岳古道調査「阿蘇カルデ外輪山越えの峠道」

(稻生野～駒返峠)最終回実施報告書

池田

1. 期日：令和5年3月11日(土)
2. 場所：山都町稻生野～南阿蘇村駒返峠登山口
3. 参加者：9名(土井、山本、石井、中林、城戸、
松尾、三宅、田北、池田)
4. 日程：集合 8:30 南阿蘇グリーンロード駒返峠登山口
⇒山都町稻生野へ移動(山本車に4人、三宅車に4人)
(土井先生はここからスタート、本体と合流後
往復)、

本隊は 9:40 稲生野着、10:00 出発。

12:30 駒返峠(昼食)⇒14:30 南阿蘇グリーン
ロード駒返峠登山口着、15:00 解散。

5. 経費：参加者のガソリン代については
後日精算のため全員分の走行距離を池田が
集計記録
6. 調査のデータは古道調査 PT で調整し
報告のデータベース化作成の予定
7. その他：なだらかな勾配の森林コース
で快適である。

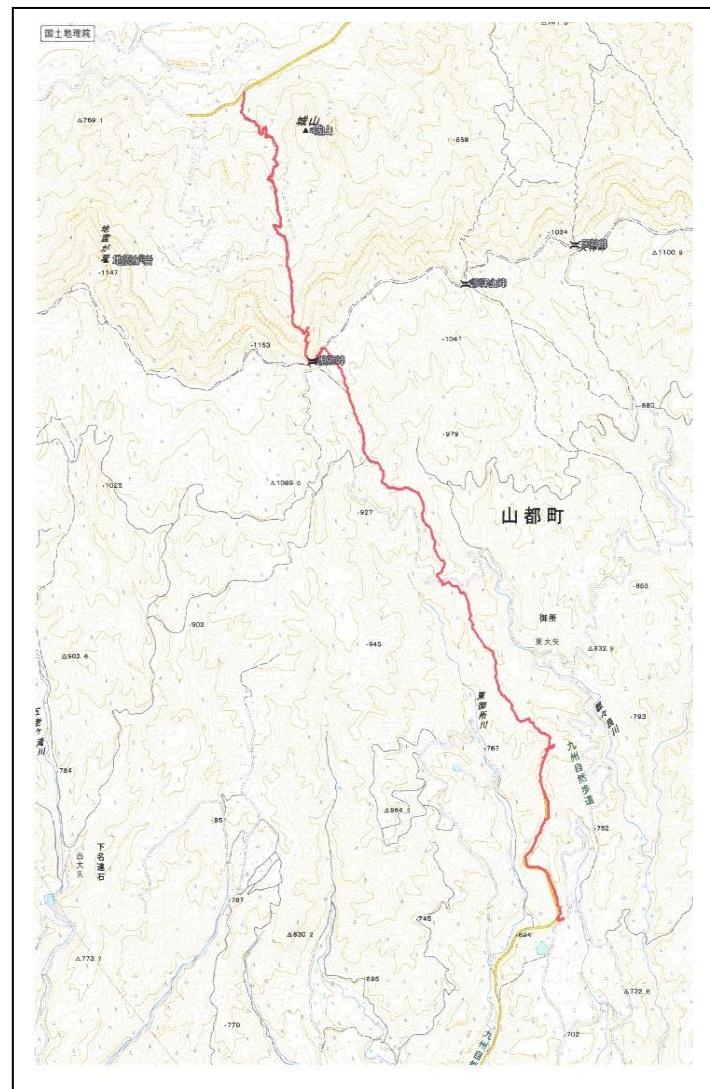
山都町稻生野から入り、周回ルートを取
ると史跡“御所塚”なども見ることができる。



山都町稻生野へ移動



南阿蘇グリーンロード駒返峠登





土井先生と合流



駒返峠



ゴールの駒返峠登山口(水場・山の神)

9 宮崎支部との交流登山報告書

公益社団法人 日本山岳会熊本支部
担当 山本 直

1.期日 令和5年3月25日（土）～26日（日）

2.場所 熊本県上天草市 龍が岳、白嶽、樋島

【宿泊】 旅館 ひのしま荘

3.参加費 14,000円

4.参加者(敬称略)

宮崎支部 7名

日高 研二 橋口 三枝子 多田 周廣 多田 登美子 服部 岩男

服部 澄子 武田 芳雄

熊本支部 17名

廣永 峻一 田北 芳博 木下 昭二 岩下 律雄 植木 啓子

中林 晉幸 城戸 邦晴 三宅 厚雄 川上 春枝

池田 清志 松本 博美 橋本 悅子 森尾 奈美

土井 理 山本 直 戸上 貴雄 前田 節子

5.日程 ⇒車 →徒歩

1日目（3月25日）

アクアドーム熊本（乗り合わせ）12：30⇒13：40 三角西港（宮崎支部と合流）14：10⇒15：30 龍ヶ岳山頂 16：30⇒17：00 ひのしま荘懇親会 18：30～20：30

2日目（3月26日）

朝食 8：00
ひのしま荘 9：10⇒9：40 白嶽森林公園 10：10→11：00 鋸嶽→
11：30 不動滝→12：10 白嶽山頂（昼食）12：40→
13：00 白嶽森林公園（交流会解散）⇒16：30 アクアドーム熊本

6.概要

アクアドーム熊本に予定通り集合し、乗り合わせで、三角西港へ向かう。宮崎支部の方々は一旦三角駅にて出迎え、その後三角西港にて熊本支部と合流することとした。三角西港で皆様、浦島屋や龍驤館等を見学し、龍ヶ岳へ向かう。龍ヶ岳へ向かう道はいくつもあり、車載しているナビにより道案内がバラバラで、到着時間にかなり差があった。天気はまずまずで、観海アルプスの山々が展望できた。頂上の展望台で写真撮影を行い、また。一部のかたはミュイ天文台の入館など、ゆっくり見学をして、樋島のひのしま荘へ向かう。

ひのしま荘へは17時ころには到着。今の時期で、全国旅割利用のためのコロナチェックの記入を一人一人行うことや、部屋割りなどで時間がかかる。そのため、少し遅れて18：30から交流会を開始。参加できなかつた宮崎支部荒武支部長からのワインの差し入れを披露。めずらしい、ひとで（五本ガゼも珍しい）の料理などで盛り上がった。

翌朝は、小雨模様。回復見込みの予報を信じて、雨支度はせず9：10頃宿を出発、白嶽森林公園へ向かう。到着すると、残念ながら、天気の回復は期待できそうもないため、改めて雨支度で登山開始。宮崎支部の方々の案内は道順や樹木に詳しい戸上さんにお願い

した。小雨の中、雲の切れ間から少し観海アルプスの山々が見える。11：00頃鋸嶽到着、11：30不動滝。時間も押しており、天気の回復も見込めないので、ドルメンや矢岳神社はカットして、白嶽へ向かう。12：10白嶽着。風もあり、天気も良くないので、昼食、写真撮影をして12：40下りはじめ、13：00には白嶽森林公園に到着。記念写真後、解散式をして、宮崎支部の方々と別れ、アクアドーム熊本へ向かう。



龍ヶ岳山頂展望所にて



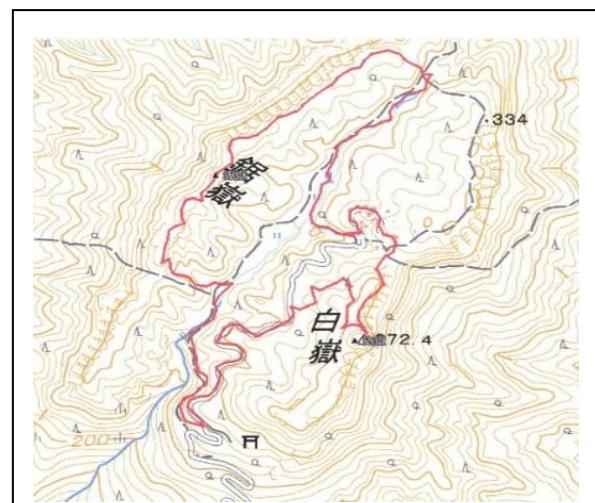
ひのしま荘にて



白嶽山頂にて



白嶽自然公園キャンプ場駐車場



10 会員の異動

事務局 山本直

会員から会友へ

江島 博之

新会友

甲斐奈々子

会友退会

門司 恵美子 悅 裕美乃

編集後記

4年ぶりに新型コロナウイルスが下火になり、日常も外出も活発になり、登山活動も活気が出てきました。いろいろな行事が復活し出しました。山岳会の行事もコロナ禍前の様に活動者数が増えることを期待しております。

【GPS軌跡地図の挿入】 登山報告書に写真は多いのですが、歩いたコースがわかりにくいため今回はGPS軌跡に基づく登山ルート地図を添付することにしました。

【原稿募集】 また山岳会の行事とは別に思いで深い個人山行報告、個人的な体験記、諸処の随想などお寄せいただければありがたいです。

田北 芳博 Eメール yt19-57@tune.ocn.ne.jp

田北 09087611471.

